若葉に臥、 今こそ我が身の翼と成さんけま ゆ みっぱき なっぱき なっぱき なっぱき なん 翠き早緑、 寮友との絢夢は東雲明ともしの駒のある 寮で培うこの大志 いせし風吹く楡陸か かぜな おまりに深く いっぱん か 陵か ŋ (D)

星影映えり し原始の森を あまりに長く

六華と月を燈火に が離乱れて我が身の果ても がいかかった。 がありの果ても がりのまるともしなりです。 がは、こころのまみ がりの果でも がりのまるともしなりです。

飛び発た たな雄 いなる生命抱え得てたな雄叫び羽ばたきに ん ざ北半 の雄ら 途と

魂の懊悩みまき。 魂の懊悩みまき。 なや くもちら などに我等は宿る 新き魂を楡に

> 上 葉]][直 雄之 樹 君 君 作 作 歌 曲